

第3回

# ショック

▶東京医療センター 研修医セミナーから

鈴木 亮, 金 史英\*, 妹尾聡美

IRYO Vol. 63 No. 8 (505-510) 2009

キーワード：ショック，出血性ショック，敗血症性ショック

Key words : shock, hemorrhagic shock, septic shock

2009年2月に行われた東京医療センターの研修医セミナー「ショック」の記録の一部です。

## 総論

今回のテーマはショックを取り上げる。ショックの定義は表1のとおりである。

この表からいえることは、ショックかどうかを見

きわめるのに必要なものは、医師1人と体温計・血圧計があればわかるということである。

次に、実際に経験した症例を紹介する。

## 症例1

60歳男性。

主訴：失神

既往症：統合失調症

現病歴：自宅にて失神したとのことで精査目的に入

表1 ショックの定義 (文献<sup>1)</sup>を一部改変)

1. 大項目: 血圧低下 (①-③のいずれかを満たす)
  - ①収縮期血圧90mmHg以下
  - ②平時の収縮期血圧が $\geq 150$ mmHg以上の場合  
平時より60mmHg以上の血圧低下
  - ③平時の収縮期血圧が $\geq 110$ mmHg以下の場合  
平時より20mmHg以上の血圧低下
2. 小項目 (3項目以上満たせばよい)
  - 心拍数100bpm以上
  - 脈拍微弱
  - 爪床毛細血管のrefilling遅延 (圧迫解除後2秒以上)
  - 意識障害 (JCS 2桁以上またはGCS10点以下)、または不穏・興奮
  - 乏尿・無尿 (0.5ml/kg/時以下)
  - 皮膚蒼白と冷汗、または39℃以上の発熱 (感染性ショックの場合)

国立病院機構東京医療センター 救命救急センター 現所属：日本医科大学付属病院 高度救命救急センター  
別刷請求先：鈴木 亮 国立病院機構東京医療センター 救命救急センター 〒152-8902 東京都目黒区東が丘2-5-1  
(平成21年8月7日受付，平成21年8月14日受理)

Shock

Ryo Suzuki, Shiei Kinn\* and Satomi Seno, NHO Tokyo Medical Center, Nippon Medical School Hospital